

新学習指導要領「ダンス領域」の具体化に関する実践研究 — 筑波大学附属坂戸高等学校を対象にして —

保健体育科 大津 展子

学習指導要領の改訂にあたり、学習指導要領にそった実践を本校の生徒を対象にして行うことにした。その際、本校の生徒の実態を熟考し、その実態に合致した単元とその目標を設定した。本研究では、新学習指導要領に即した実践を行い、単元終了後の生徒の感想を記述させ、その内容を調査した。授業者としては、単元と授業の内容が本校の生徒に適切であったと考えているが、客観的なデータはない。ただ、単元中に一貫して指導していた内容は、生徒にしっかり身につけていたことが単元後の感想からわかった。

キーワード：新学習指導要領 ダンス 表現 コミュニケーション 男女共習

I はじめに

ダンスの一般特性としては、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったりイメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

本校では、柔道・剣道・ダンスの3つからダンスを選択した2クラスの生徒の集団でダンスの授業を展開している。人数構成は、男子5・6名程度で残りの選択者のほとんどが女子である。今までの授業の様子に関して、男子は男子同士で表現する際は、斬新で独創的な発想から多様な動きで表現している。女子も男子同様、演劇部の生徒を中心に体を大きく使って表現している。男子と女子が交流するような場を設けても、特に恥ずかしがることもなく課題に取り組んでいる。生徒の興味関心に依じた課題を提示すると、積極的に授業に取り組むが、興味関心のないような課題になると取り組む姿勢に変化がみられる。このような本校の生徒たちからみた特性は、感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることが楽しい運動である。また、仲間と、お互いの良さ（個性）を認め合いながら活動し、踊ることを通じた交流ができると、楽しさが増す運動である。しかしながら、表現することへの恥ずかしさや、自信のなさから苦手を感じることもある運動であるといえる。

高等学校において、女子体育教員はダンス領域を担当することが多い。私も勤務校にてダンスの授業を全クラス担当している。ダンスは、表現を評価するため、非常に評価が難しいとされてきた。そして、どのような内容を指導していけばよいのか、どのような流れで指導して

いくべきなのか困惑した方も少なくないと思う。

しかし、改定された新学習指導要領のダンス領域では、A身近な生活や日常動作・B対極の動きの連続・多様な感じ・D群・もの（小道具）を使った動き・Fはこびとストーリーが、AからFに進むに従って課題が発展するようにとてもわかりやすく設定されている。単元計画は、習得（やってみる）・活用（広げる）・探究（深める）のつながりを重視し、習得で学習したことが活用で広げられ、活用で学習しことが探求で深められ、最後の発表会に学習したことすべてが生きるように組み立てていけばよいことがわかる。

II 研究目的

本校では、1年次から2年次になる際にクラス替えがあったため、人間関係を再度構築していく必要があると思われる。2年次での中心的な課題である、即興表現から作品につなぐ学習がスムーズにできるように、まず、体ほぐしとしてアイスブレイクやリズムダンスを単元のはじめに取り入れることで、生徒間のコミュニケーションが円滑になるように指導したい。また、単元前半で、「群の動き」「ものを使った動き」「はこびとストーリー」等のテーマでの即興表現を十分に経験させ、後半の作品創作に活用させる。

そして、毎時間学習カードを記入させ、その記入内容や、生徒たちの評価結果から、自身の指導を見直し、次時の授業改善に生かしていきたいと考えている。

また、A身近な生活や日常動作・B対極の動きの連続・多様な感じ・D群・もの（小道具）を使った動き・Fはこびとストーリーが、AからFに進むに従って課題が発展するようにとてもわかりやすく設定されている。単

元計画は、習得（やってみる）・活用（広げる）・探究（深める）のつながりを重視し、習得で学習したことが活用で広げられ、活用で学習しことが探求で深められ、最後の発表会で学習したことを発揮できるようにさせる。

III 研究方法

1 単元の見積

- (1) 主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、役割を積極的に引き受けて自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することがで

- きるようにする。〔関心・意欲・態度〕
- (2) グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。〔思考・判断〕
- (3) 表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、変化をつけて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめて発表したりして踊ることができるようにする。〔技能〕
- (4) ダンスの名称や用語、表現の仕方、関連して高まる体力、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解できるようにする。〔知識・理解〕

2 単元の評価規準

| | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能 | 知識・理解 |
|-----------------|--|--|---|--|
| 単元の評価規準 | ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 | グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 | 表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、対極の動きや空間の使い方に変化を付けて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめて踊ることができるようにする。 | 創作ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解できるようにする。 |
| 学習活動における具体的評価規準 | ①練習や発表に、主体的に取り組もうとする。 ②練習や発表時に、互いのよさや違いを認めたり、賞賛したりしようとする。 ③仲間と活動を行う上で必要な役割を作り、決めた役割を積極的に引き受け、責任を持って取り組もうとする。 ④課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、グループの話し合いに責任を持って関わろうとする。 ⑤健康・安全に留意している。 | ①目標に応じてグループや自己の課題を設定し、課題解決の過程を踏まえて課題を見直している。 ②発表後の話し合いの場面で、互いのよさや違いを指摘している。 ③グループでの話し合いの場面で合意を形成するための調整の仕方を見付けている。 ④練習、発表の場面で、健康・安全を確保・維持するために自己や仲間の体調に応じた活動の仕方を選んでいる。 ⑤ダンスを生涯にわたって楽しむため自己に適したかわり方を見付けている。 | ①テーマにふさわしいイメージをとらえ、動きや空間の使い方に変化を付けて、即興的に表現することができる。 ・多様なテーマから、見る人に伝わりやすいように、中心となるイメージをとらえることができる。 ・思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きに変えて表現することができる。 ・動きに緩急や強弱を付けたり、それらを最大限に強調した対極の動きで表現することができる。 ・列・円・渦巻き・密集一分散など、空間の使い方に変化を付けて表現することができる。 ・主役と脇役、ユニゾン、カノン、対立、密集一分散など、個人や集団の動きを生かして表現することができる。 | 次のことについて理解し、話し合いで言ったり、学習カード等に書き出したりしている。 〔名称や用語〕 ①創作ダンスで用いられる、即興表現や作品創作などに関する名称や用語。 ②多様な表現につながる重要な動きや空間の使い方、個人や集団の動きなどのポイント。 ③それらを高めるための安全で合理的な練習の仕方。 〔文化的背景と表現の仕方〕 ④自己表現のダンスとして誕生した文化的背景。 ⑤テーマやイメージを自由にとらえた動きで仲間と表現し合って踊ること。 〔体力の高め方〕 ⑥創作ダンスの動きに関連して高まる体力(柔軟性や調整力など)。 〔課題解決の方法〕 ⑦自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、発表などを通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった、課題解決のための道筋があること。 〔発表の仕方〕 ⑧発表の形態、ステージの使い方、音響や衣装などをテーマに応じて選ぶことがあること。 |

3 単元の計画

学習過程

| | 1 | 2 | 3 | ④ | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|----|------------------------------------|--|---|---|---|---|---|---|---|----------------------|
| | 用具準備・集合挨拶・出欠確認・健康観察・本時のねらいと学習内容の確認 | | | | | | | | | |
| | はじめ | なか1 | | | | なか2 | | | | まとめ |
| 10 | 学習のねらいと進め方を理解し、学習の見通しを立てる。 | ねらい① いろいろなテーマからイメージや動きをとらえて即興的に表現する。 | | | | ねらい② 作品のテーマを選び、表したいイメージを強調した「はじめーなかーおわり」の構成で作品を創り、踊る。 | | | | グループごとに踊り込んで、発表会を行う。 |
| 20 | ・オリエンテーション ・DVD鑑賞 ・ワハハダンス | 習得(やってみる) ・毎時間のテーマから、共通のイメージや動きで思いつくままに踊る(教師のリードで)。 | | | | 探求(深める) ・グルーピング ・グループごとの創作や見せ合い(課題確認→動きづくりと感じの確かめ→見せ合い→手直し) | | | | ・発表会(発表と鑑賞) ・まとめ |
| 30 | | 活用(広げる) ・グループで、好きなイメージや動きでメリハリのあるひと流れの動き(小作品)に工夫して踊る。 | | | | | | | | |
| 40 | | 見せ合い 【毎時間のテーマ】 2:「出会いと別れ」(身近な生活や日常動作) 3:「ねじるー回るー見る」(対極の動きの連続) 4:「見るー見るー見る」(群の動き) 5:「椅子、布、新聞ボール」(ものを使った動き) 6・7:気に入った小説・詩から(はこびとストーリー) | | | | | | | | |
| 45 | 集合・健康状態の確認・本時のまとめ・次時の予告・挨拶・片づけ | | | | | | | | | |

4 本時の学習と指導 (4/12時)

(1) ねらい

〔関心・意欲・態度〕

- ・練習や発表に主体的に取り組むことができる。
- ・グループ活動の際に、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、責任を持って関わることができる。

〔思考・判断〕

発表後に、自他のグループそれぞれのよさや違い、課題を指摘することができる。

〔技能〕

「密集ー分散」などの群の動きの効果を生かしなが

ら、「見るー見るー見る」を使って表したいイメージをとらえ、変化を付けたひと流れの動きで表現することができる。

〔知識・理解〕

ダンスにおける視線の効果や、群の動きの効果を理解することができる。

(2) 準備 CDMDデッキ・CD・MD・タンバリン・掲示用模造紙

(3) 展開

| 段階 | 学習内容・活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 |
|-------------------|--|---|------|
| <p>導入 10分</p> | <p>1. 集合・整列・挨拶・出席確認・健康観察</p> <p>2. ダンスウォーミングアップ (1)体ほぐしの運動（円形コミュニケーション） ○全員で円形になり、音楽に合わせて次のような動きを行なう。 <動きの例> ・手をつないで円の内側を向き、体を揺らす。 ・リズムによって、自分の膝→右の人の背中→自分の膝→左の人の背中をたたく。その繰り返し。 ・同一方向を向き、前の人の背中、腰、足等を心をこめてパタパタたたく。 ・前の人の背中を、いろいろな場所をこする。 ・前の人の肩を持って揺らし、皆で揺れる。等</p> <p>(2)群での即興的なウォーミングアップ「リーダーに続け！」 ○7人程度のグループになる。 (3~5グループ) ○グループ内でリーダーを2人決める。 ○リーダーの動きに続いて（まねしたり等）、体育館を移動しながら即興的に踊る。 ○他のグループを意識して、感じ合いながら踊る。</p> | <p>・出席確認する際、健康観察・安全確認を行う。</p> <p>・心と体がリラックスできるような音楽を用意する。</p> <p>・相手が気持ちよいように、会話しながら、相手の様子を見ながら行なうように促す。</p> <p>・次のような言葉かけを行ない、自由に、いろいろな動きで、群で感じ合いながら動けるようにする。 「いろいろな動きをやりましょう」 「大きい動きも小さい細かい動きもいいよ」「その場でやっていないで移動してみよう」「グループ同士で向かい合い、意識して動いてみよう」</p> | |

展開
30分

「見る－見る－見る」を群れで表現しよう！！

3. 本時のねらい、学習内容について確認する。

I いろいろな「見る！」(習得)
－教師のリードで－

4. 教師の前に座って、教師の言葉かけで動く。

<動きの例>

- ・体全体で「見る」
- ・方向を変えて「見る」
- ・3つ連続で「見る－見る－見る」(方向を変えて)
- ・教師を「見る」
- ・タンバリンを「見る」
- ・動くタンバリンを「見る」(視線を動かす)
- ・最後は、「ピタッ！」と止まって見て終わる。

5. 立って、教師の言葉かけで動く。

○いろいろな動きとかけ合わせて、「見る」動きを行なう。

○半分に分かれて見合う。

<動きの例>

- ・走って、ジャンプして、転がって「見る」
- ・誰かと集まってくっついて「見る」→離れる→くっついて「見る」
- ・散らばって「見る」
- ・3つ連続で「見る－見る－見る」
- ・人の体を使って覗くように「見る」
- ・センタに集まって、上、下、好きな所、前を見る。
- ・背を向けて歩きながら遠くを「見る」
- ・振り返って正面を「見る」。
- ・視線を動かさず鑑賞している人たちをゆっくり近づきながら「見る」等
- お互いに気が付いたことを発言する。

・「見る」動きを手がかりに、群の効果を学ぶことを伝える。

・言葉かけとタンバリンで合図をする。
・視線が明確になるように、集中して見るように伝える。
・目だけでなく、体全体で見るように助言する。

・鑑賞する生徒には、群での動きがどのように見えるかよく見ておくように伝える。

・群の動きがよかったら、交替の際に拍手するように促す。

・視線の効果、群の効果を確認する。
・「見る」を強調するためのポイント(例えば、前の視線を強調させるのであれば一度後ろを向く、「ピタッ！」と止まって「見る」を強調し

・主体的に取り組んでいる。【関】

・視線の効果や群の効果(見る瞬間の緊張感、大勢の視線が集中した時の迫力など)に気づき発言したり、

| | | | |
|------------------|---|--|--|
| | <p>6. グループ（6～7人）で、リーダーに続いていろいろな「見る」を即興的に動く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループ(ウォームアップのグループ)内でリーダーを2人決める。 ○ リーダーが「見る」動きやイメージを、動きで示したり、「○○のように見る！」と声をかけたりして、全員で即興的に動く。リーダーは交替。 <p>7. グループごとに表したいイメージを決めて、ひと流れの動きに工夫する。</p> <p>8. 発表と鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループ発表の順番を決める。 ○ 発表の演出（進め方）を確認する。 <p><発表の進め方></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全員で教師のリードで「見る」を表現する。 ② 各グループの発表 ③ 全員で教師のリードで「見る」を表現。最後はポーズ。 | <p>たければ速く動いて（走って）から止まる等）を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創作方法と、創作のポイントについて、次のような助言を行なう。 <p><創作方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動きながら考える。 ・ まずは大まかに最後までつくる。 ・ 出されたアイディアはすべて試してみる。 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初と最後をはっきりと。 ・ 一番表したい部分が強調されるように動き（緩急強弱等）や空間構成（密集－分散等）に変化をつけて表現する。 | <p>書き出したりすることができる。</p> <p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、責任を持って関わるができる。【関】 ・ 視線と群の効果を生かし、イメージにふさわしい変化を付けたひと流れの動きを工夫し、踊ることができる。【技】 |
| <p>整理 5分</p> | <p>9.本時のまとめをする。</p> <p>10.ストレッチをする。</p> <p>11.挨拶、片付けをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに記入させる。 ・ 各グループの代表1名に感想を発表させる。 ・ 各グループの良かった点と改善点についてコメントする。 ・ 視線と群の効果について確認する。 ・ 健康観察を行なう。 ・ 協力して安全に留意しながら片付けを行うよう指示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自他のグループそれぞれのよさや違い、課題を指摘することができる。【思】 |

5 教師行動

とにかく「称賛」する言葉かけのみ行うように心がけ、すべての言動に関して一貫性を重視し、教師が見本となるように態度で示した。

IV 結果と考察

単元終了後の生徒の感想に関して、Qダンスの授業で学習した内容は？という問いには、デフォルメと群舞という記した生徒がとても多かった。公開授業のインパクトが強かったのだろう。一方、ワハハダンスやアゲハ蝶といった曲名をあげる生徒もいた。Q授業の感想は？では、「普段しゃべらない人とでも仲良くなれた気がする」「はずかしさより、みて！という気持ちで表現できるよ

うになった」「群舞がみているだけでも動いているだけでも面白かった」などがあった。私は、不登校気味で若干身体にも難のある生徒が、ダンスの授業だけは積極的に休まず参加し、授業中は他の生徒と見分けがつかないくらい動いていたことと、弱視の生徒が「とにかく楽しくて動きまわった」と感想を述べていたことがとても印象的だった。

V 今後の課題

習熟度がさまざまな生徒に、このような授業を展開するには非常に時間がかかると考えられる。さらに、男女共習では、単元はじめの雰囲気づくりの時間が必要なのが今後の課題だろう。



H21.10.30第43回全国女子体育研究大会埼玉大会
筑波大学附属坂戸高等学校公開授業の様子



H21.10.30第43回全国女子体育研究大会埼玉大会
筑波大学附属坂戸高等学校公開授業後